

---

# 「新編 新しい社会」

# 知識の構造図

## 【4年】

---

令和6年（2024年）1月版

東京書籍

## □ 知識の構造図 県の広がり

中心概念  
(概念的知識)

宮城県は、西から東にかけて、山地、平野、海岸と違いがあり、仙台市を中心に都市や交通が広がっており、地域の特徴を生かした産業がある。

まとめる

⑧

社会的事象  
(具体的知識)

宮城県は、東北地方の中心に位置し、東は太平洋に面しており、四つの県に囲まれている。

①

- ・ 宮城県
- ・ 東北地方
- ・ 太平洋

宮城県の地形は、西側には山地が多く、中央には平野が広がり、山地や海岸には森林は海岸がある。

③

- ・ 地形
- ・ 平地
- ・ 山地
- ・ 海岸
- ・ 川
- ・ 沼

宮城県の土地利用は、平野には市街地や田が広がり、山地や海岸には森林が多く広がっている。

④

- ・ 土地利用
- ・ 田畑
- ・ かじゅ園
- ・ 畑
- ・ 牧場
- ・ 森林
- ・ 市街地

宮城県は県庁所在地の仙台市を中心に、北部に大崎市、海側に石巻市や気仙沼市、南部に白石市などの多くの市町村からなっている。

⑤

- ・ 県庁所在地
- ・ 市
- ・ 町
- ・ 人口
- ・ 村

宮城県には、平地や海沿いに、新幹線や高速道路、空港や港が多くあり、都市を中心に交通が発達している。

⑥

- ・ 交通
- ・ 鉄道
- ・ 港
- ・ 空港
- ・ 高速道路

宮城県には、地域それぞれの特徴に合わせた様々な産業がある。また、伝統的な産業も多い。

⑦

- ・ 水産業
- ・ 工業
- ・ 農業
- ・ 商業

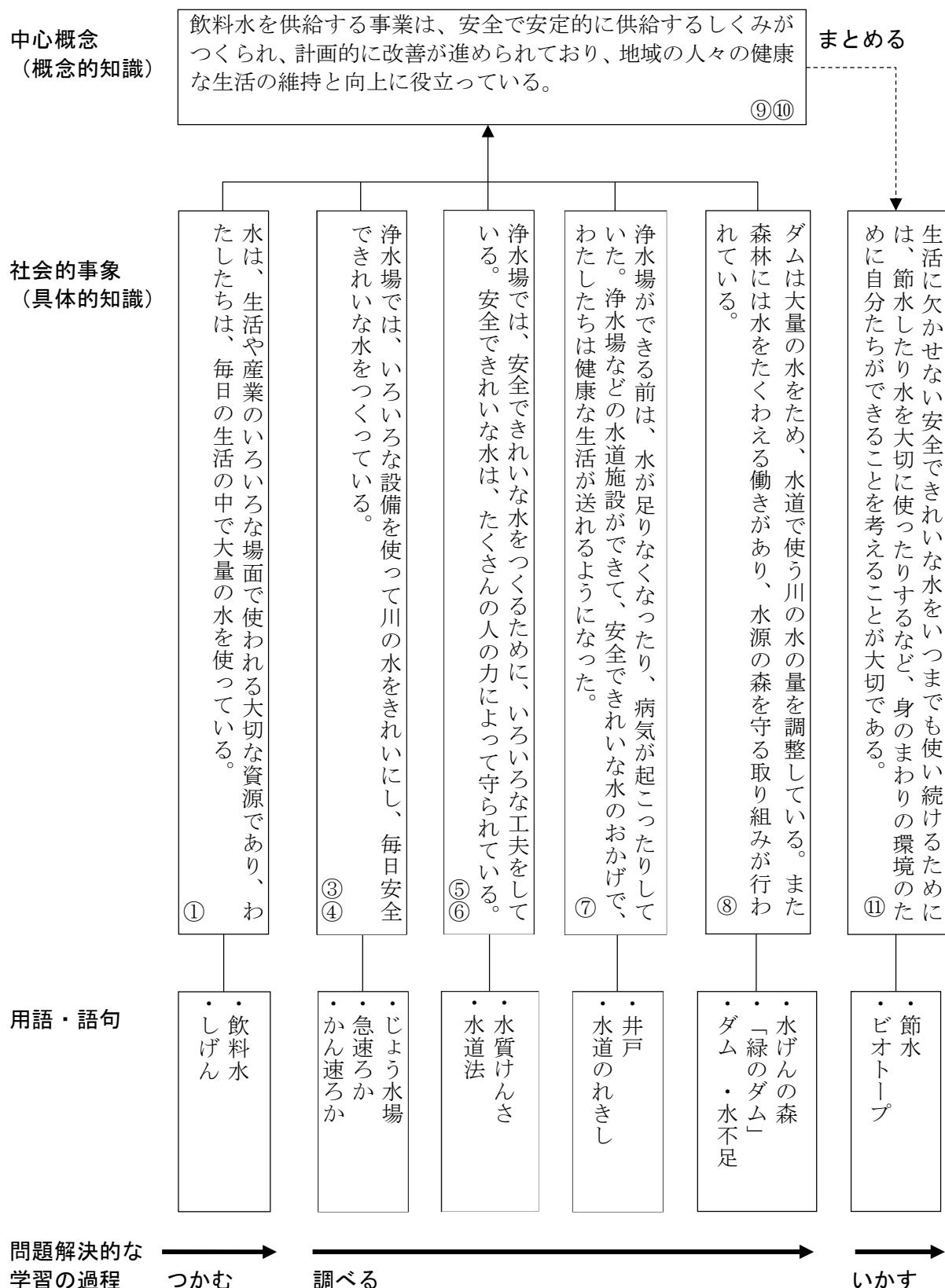
用語・語句

問題解決的な  
学習の過程

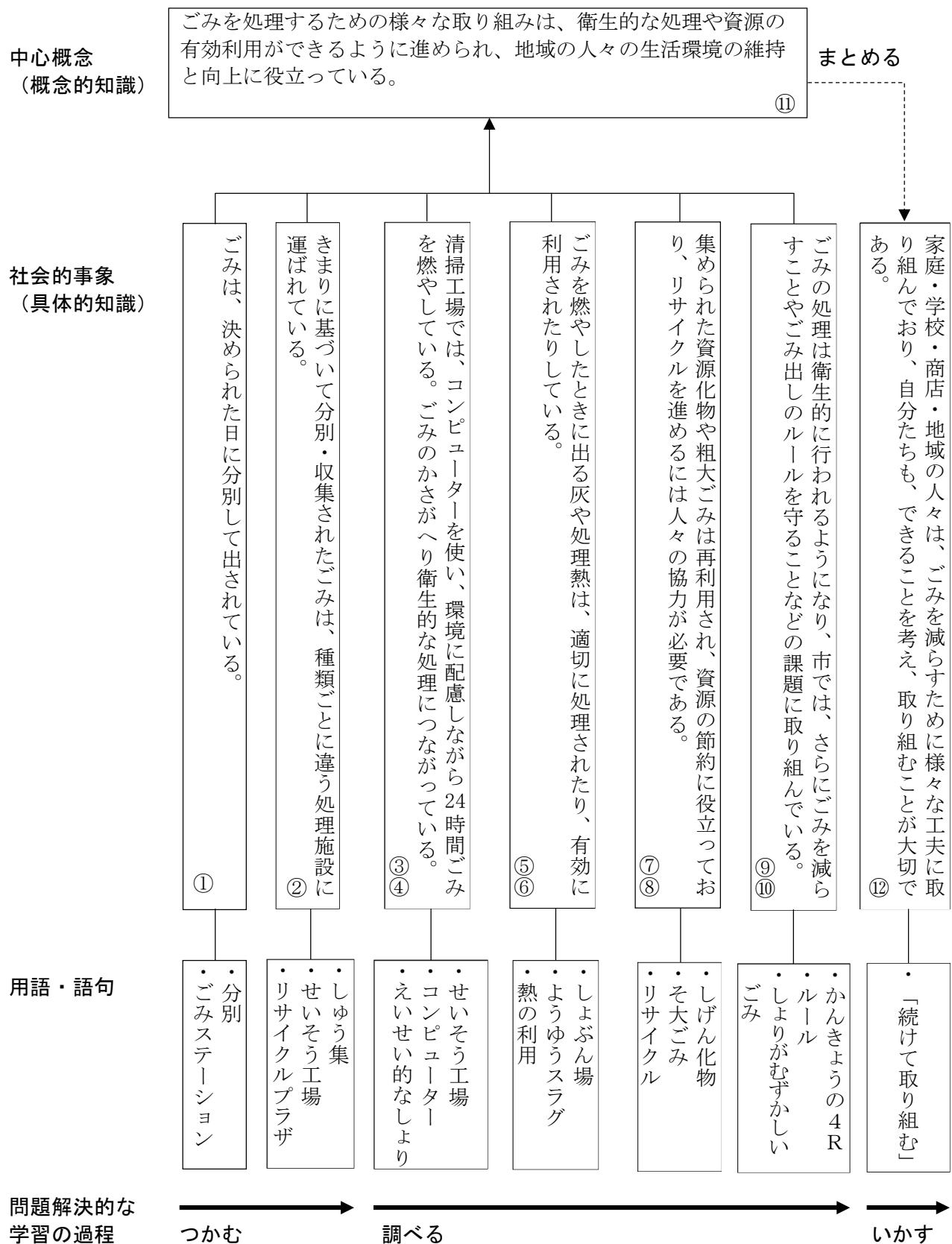
つかむ

調べる

## □ 知識の構造図 水はどこから



## □ 知識の構造図 ごみのしょりと利用



## □ 知識の構造図 風水害からくらしを守る

中心概念  
(概念的知识)

地域の関係諸機関や人々は自然災害に対し、様々な協力をして対処してきた。また、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていく。

(7)(8)

まとめる

社会的事象  
(具体的知識)

千葉市では、風水害に備えて、計画的に川幅を広げたり、堤防を整備したりするなどの対策を進めている。また、土砂災害避難訓練を行ったり、防災情報を伝えるウェブサイトをつくったりして、県民の防災意識の向上に取り組んでいる。

千葉県では、風水害に備えて、風水害に備えて地域防災計画をつくり防災備蓄倉庫を設置するなど市の取り組みを進めるとともに、関係機関と協力できるようにしている。また、防災情報の発信を強化したり、ハザードマップの普及に取り組んだりすることで、市民の防災意識をさらに高められるようになっている。

家庭では風水害に備えて様々な取り組みをしているが、取り組みには差があり、自助の取り組みは十分とはいえない。

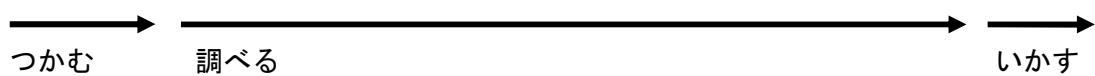
避難所運営委員会の人々は、風水害に備えて、市と協力して避難所運営訓練をしたり、地域の人への情報発信をしたりしている。また、食料や生活用品を備蓄して、市や県からの支援が届くまで、地域で支え合えるようになっている。

マイ・タイムラインをつくって、自分の家が浸水想定区域にあることを初めて知った。備蓄が不十分だとわかったので、必要なものを家族と準備するなど、自然災害に備えて自分たちにできることを考えることが大切である。

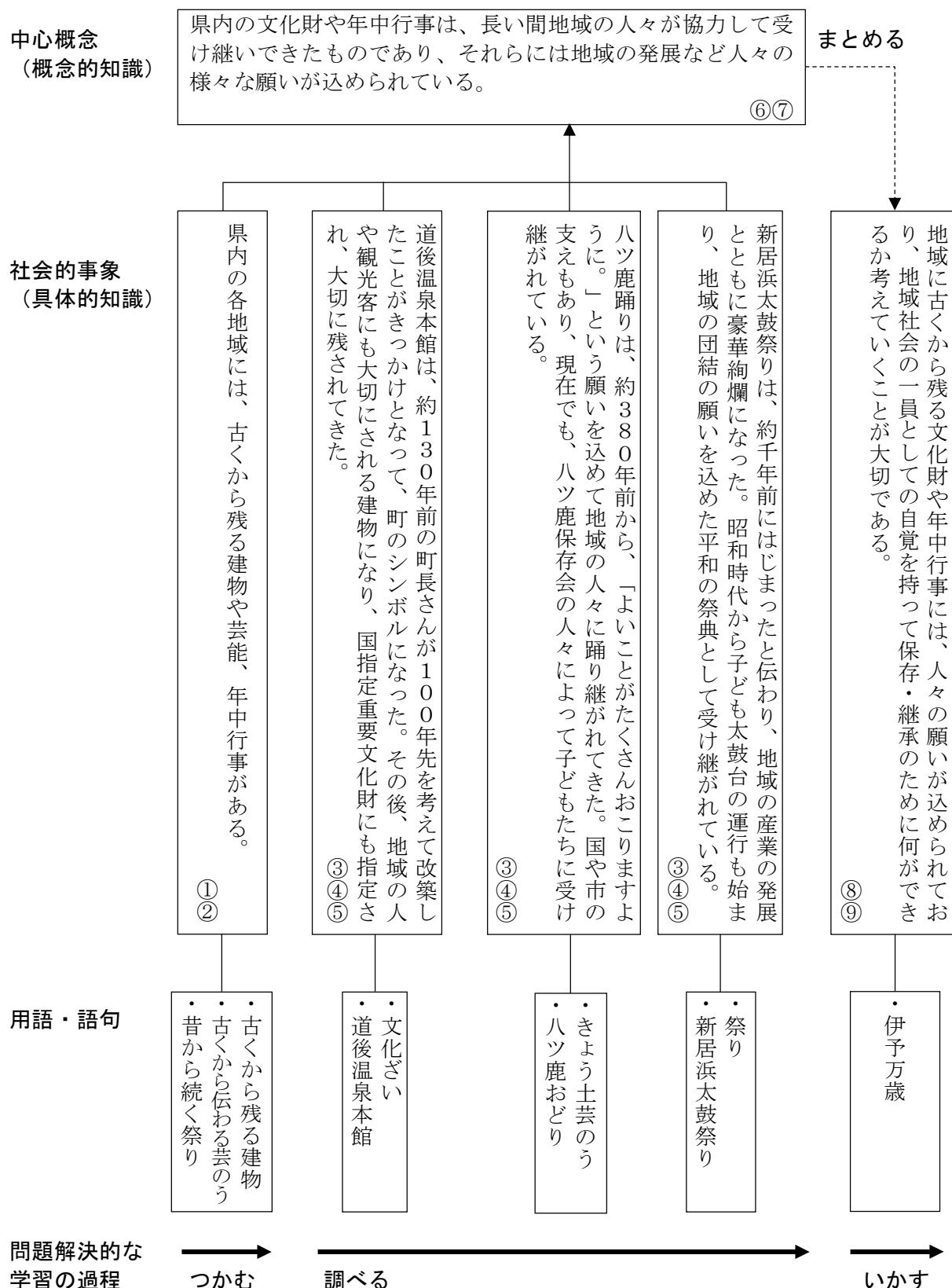
用語・語句

① 2019年に起きた風水害では、千葉市が災害対策本部を設置して、消防や警察と協力したり、避難者の支援をしたりした。自衛隊も救助活動に参加した。近年、大雨は増えてきており、風水害への備えが大切になっている。	② 風水害に対処するため、国や県が中心となり協力して堤防やポンプ場の整備を進め、千葉市でも一時的に雨水をためる施設をつくるなどしてき	③ 昔の人は水塚をつくって避難するなどの対処をしてきた。	④ 千葉市では、風水害に備えて、計画的に川幅を広げたり、堤防を整備したりするなどの対策を進めている。また、土砂災害避難訓練を行ったり、防災情報を伝えるウェブサイトをつくったりして、県民の防災意識の向上に取り組んでいる。	⑤ 千葉県では、風水害に備えて、風水害に備えて地域防災計画をつくり防災備蓄倉庫を設置するなど市の取り組みを進めるとともに、関係機関と協力できるようにしている。また、防災情報の発信を強化したり、ハザードマップの普及に取り組んだりすることで、市民の防災意識をさらに高められるようになっている。	⑥ 家庭では風水害に備えて様々な取り組みをしているが、取り組みには差があり、自助の取り組みは十分とはいえない。	⑦ 避難所運営委員会の人々は、風水害に備えて、市と協力して避難所運営訓練をしたり、地域の人への情報発信をしたりしている。また、食料や生活用品を備蓄して、市や県からの支援が届くまで、地域で支え合えるようになっている。	⑧ マイ・タイムラインをつくって、自分の家が浸水想定区域にあることを初めて知った。備蓄が不十分だとわかったので、必要なものを家族と準備するなど、自然災害に備えて自分たちにできることを考えることが大切である。
・自衛隊	・灾害対策本部	・水塚	・対さく	・ハザードマップ	・地図	・ひなん所運営委員会	・マイ・タイムライン
・風水害	・ていぼう	・公助	・防災いしき	・防災びちく倉庫	・非常持ち出し品	・ひなん場所	・自助

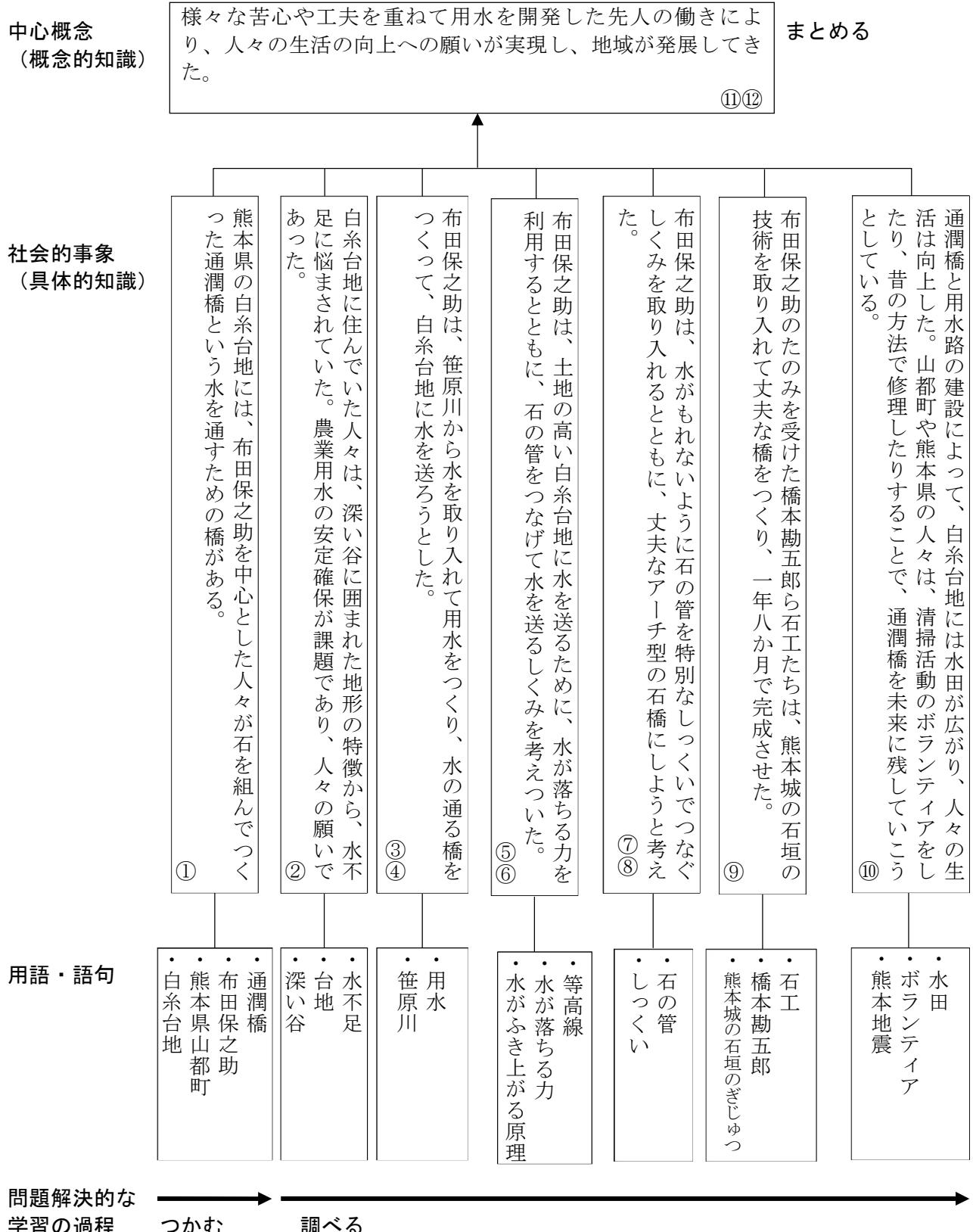
問題解決的な  
学習の過程



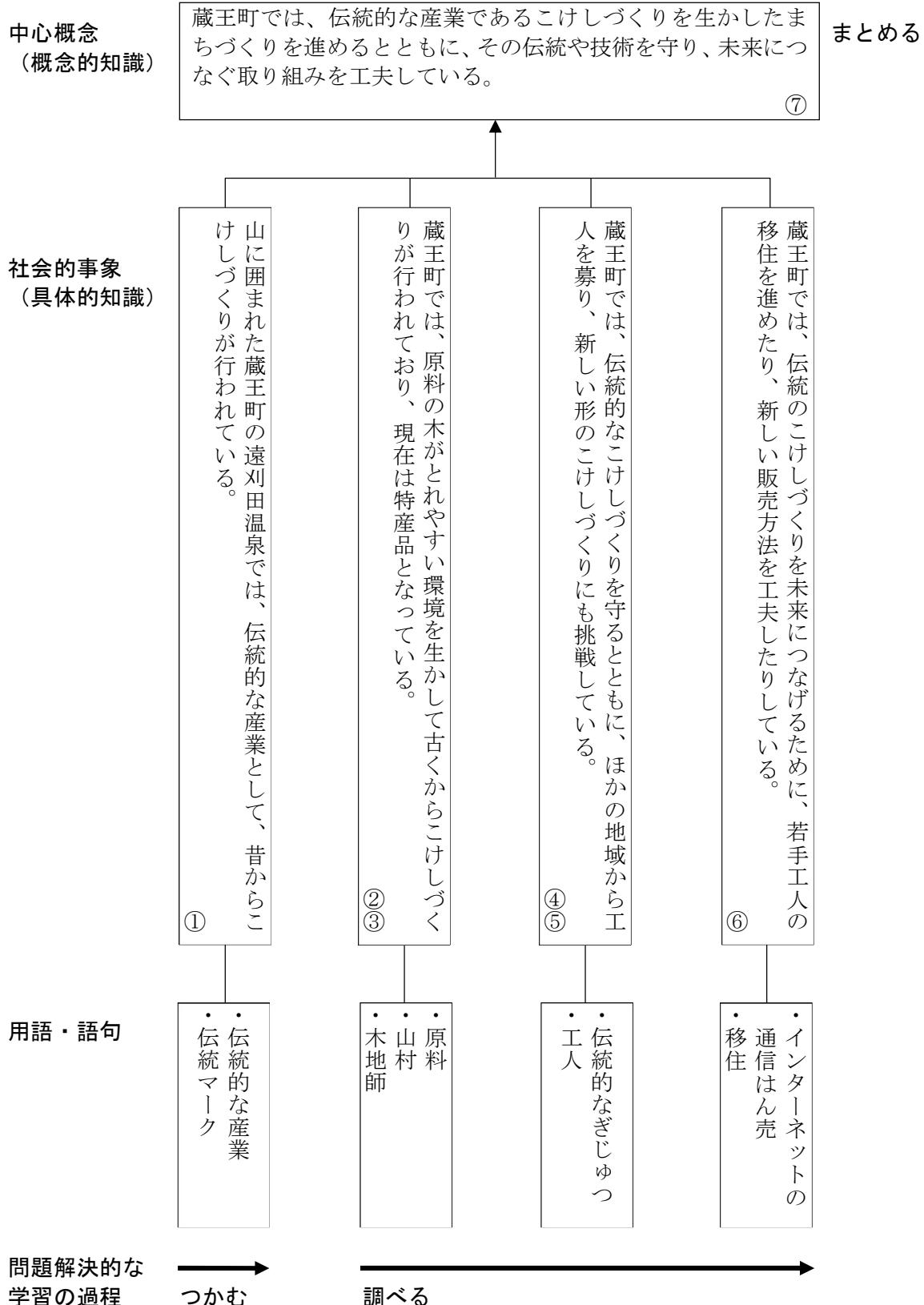
□ 知識の構造図 残したいもの 伝えたいもの



## □ 知識の構造図 谷に囲まれた台地に水を引く



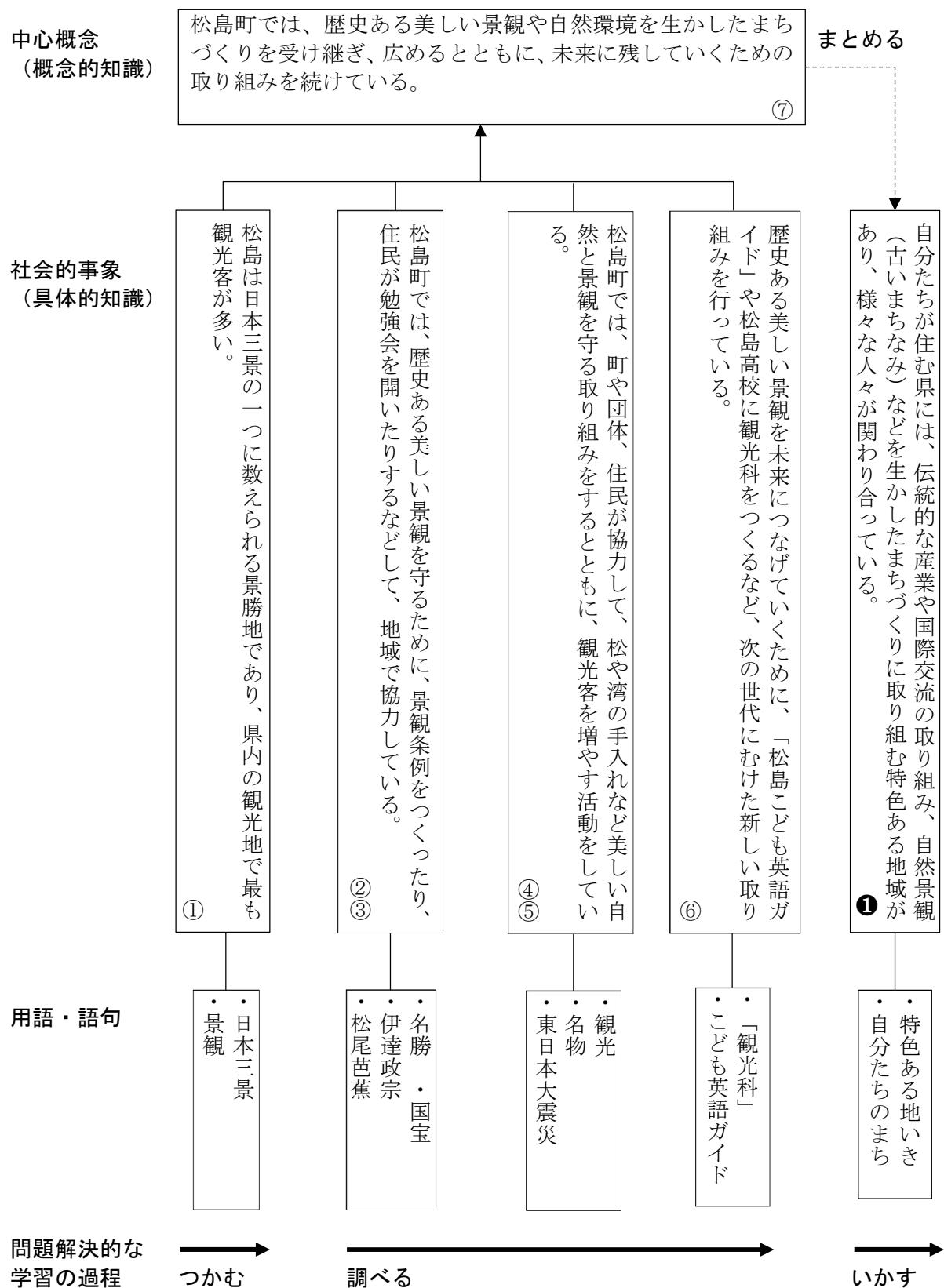
□ 知識の構造図 こけしをつくるまち・蔵王町



□ 知識の構造図 国際交流に取り組むまち・仙台市



□ 知識の構造図 美しい景観を生かすまち・松島町



□ 知識の構造図 古いまちなみを生かすまち・登米市登米町

